

令和8年度第1回八幡市総合計画検討懇談会会議録（案）

○日 時：令和8年5月19日（火） 14：00～15：30

○場 所：八幡市役所 4階 会議室4-2

○傍聴人：0名

○内 容：

- 1 開会
- 2 出席者紹介
- 3 部長あいさつ
- 4 議事
 - (1) 第5次八幡市総合計画第9次実施計画（案）について
 - (2) 意見交換
- 5 その他
 - (1) 懇談会でいただいたご意見について
会長と事務局で調整の上、事前にいただいた意見を含め、主な意見を実施計画に掲載する。また、議事録を市ホームページ上で公開する旨、了承。
 - (2) 次回懇談会について
八幡市まち・ひと・しごと創生検討懇談会を秋頃に開催する予定。

○懇談会委員意見・質疑等【基本目標（章）ごとに要旨をまとめて記載】

【基本目標1（第1章）ともに支え合う「共生のまち やわた」について】

- 会 長：リカレント教育については、講座への参加のみをもって満足しがちであり、具体的な成果との結び付けや、受講内容を共有する受講後の横の広がりが薄い印象がある。
- 委 員：リカレント教育は、押し付けるものではない。社会に出て自ら必要に応じて勉強することで一層の理解が深まるものであると理解する。
- 委 員：社会人の中でも、仕事に対する責任感や対人間でのストレス等を考えると、勉強をしてまで役職につきたくないという人が一定数いる。各種ワークショップも減ってきているように感じており、継続性が無い参加者も数多くいる。リカレント教育については、本人の意識によるところが大きく、利用件数についてはニーズがないのならば、伸び悩みは仕方がないように感じる。
- 会 長：国がリカレントを推進する一方、必ずしも現場はその通りになっていない。この事業については受講者数で評価されているが、別の評価軸を検討してもいいのではないか。
- 委 員：リカレントは学びの場であり、通常、何か目的をもって参加することから、一般的な市民講座とは毛色が異なる。受講者数のみで評価をするのは困難ではないか。

- 会長：受講率や講座後のフォローアップ、制度そのものの改善等も含めて、より効果的な運用体制となるよう検討されたい。
生涯学習人材バンクについては、登録者数に対して、利用件数が少ない点が気にかかる。
- 委員：利用件数の目標値と現状値が乖離している点も気になる。肌感覚として近年の生涯学習教室への参加者数の減少も感じている。
- 委員：需要と供給がマッチしていないのではないか。マーケティング面において改善の余地があると思われる。
- 会長：ニーズの再確認及び必要であれば数値の再設定をされたい。
地域団体活動については、団体数だけで判断できるものではない。自治組織団体への加入率の伸び悩みについては、他の自治体においても同様の状況である。自治組織団体に加え、新たな地域の担い手の育成等にも取り組まれたい。

【基本目標 2（第 2 章）子どもが輝く「未来のまち やわた」について】

- 委員：不登校については様々な要因がある。近年は SNS 関連の被害が多く見受けられ、被害度合いによっては登校がしづらくなる生徒も存在する。当然、学校においても注意喚起を行われてはいるが、SNS の性質上、浮き彫りになってこない問題が多い。
- 委員：スマートフォン所持の低年齢化については、所持していなければ、逆に輪に入れないという問題が発生するためある種仕方はないが、所持する際にモラル教育を行うことが必要である。
- 会長：大学でも SNS の利用については対策を行ってはいるが、今一度、現場でももう一歩進んだ対策をお願いしたい。
- 委員：不登校を減らしていくことは厳しい。当事者が第三の居場所（サードプレイス）を確保できることが大切と考える。
- 会長：中学生はインターンシップで一定の効果が出ている。学校と家庭で限界がある場合は、社会に任せるのも一つの手ではないか。第三の場所の拡充についても検討されたい。

【基本目標 3（第 3 章）誰もが「健康」で「幸せ」な「健幸のまち やわた」について】

- 会長：総括シートの第 1 節、今後の取組方針に記載のある Park-PFI について、進捗状況はいかがか。
- 事務局：令和 7 年度にサウンディングを行い、その結果を踏まえ現在も取り組んでいる。
- 会長：総括シートの第 2 節、今後の取組方針に記載のある、新たなアプローチを含めた検討とはどういった内容か。
- 事務局：現状値が伸び悩んでいるので、他のアプローチを考える必要あるのでは

ないかという問題提起である。

会 長：入院入所施設も限られており、家庭内のみでは限界があるため、地域全体で高齢者を見守ることが求められる。

委 員：高齢者の健康づくりの場において、女性の参加者が圧倒的に多く男性は少ないという現状がある。男性の方が、地域とのつながりが希薄であるという要因があるのではないか。

会 長：男性の方が社会的なつながりが薄いというのは各分野共通である。これらの問題は、個別分野で解決するには限界があるため、政策間連携についても留意されたい。

【基本目標 4（第 4 章）自然と歴史と文化が織りなす「観幸のまち やわた」について】

委 員：観光入込客数については、さくらまつりを例にとると令和 7 年度は 16 万人、8 年度は 18 万人であった。しかし、観光消費額という点で見ると、石清水八幡宮駅～背割堤の往復で終わる人が多く、市内に引き込めていないという課題がある。市内の 3 つのいちご園がいちご狩りの PR 等に力を入れており、消費額の向上に努めているところである。

会 長：石清水八幡宮、背割堤に訪れた人をいかに回遊させるかという構造的な問題がある。様々な体験活動を実施いただいていると思うが、参加人数だけにとられることなく、それに合わせて愛着を持って住み続けたいと思える人を増やしてほしい。ヤワタカラや文化観光未来戦略、徒然草エッセイ大賞などを今後どのように魅力づくりと情報発信に繋げていくかが課題である。

【基本目標 5（第 5 章）しなやかに発展する「活力のまち やわた」について】

委 員：創業件数については一定数あり、商工会の会員数も微増であるが、人手不足という課題は長年継続している。また、ハローワークについて八幡市の管轄は伏見であり、伏見のハローワークを訪れる人は、京都市内での就職を希望する人が大半であるという課題がある。一方、京田辺市においては、ハローワークが市内に存在するので、市内での就職を目指す人を確保しやすくなっている。こうした構造的な問題を解決する必要があるのではないか。

会 長：新しくハローワークを作ることは難しいため、それに代わる施策も検討されたい。市内事業所の手不足については大きな企業や大学がない八幡にとって地域の活力に影響する大きな問題である。

新名神開通後には交通量の増加が見込まれることから、安心・安全なまちづくりに向けて必要な対策を講じられたい。

【基本目標 6（第 6 章）持続可能な「安心・安全のまち やわた」について】

委員：令和 8 年度当初予算を見ると、一般財政調整基金がかなり目減りしている印象を受ける。今後どれだけの財政需要が見込まれるのかを可視化のうえ必要な事業を実施していくためにも、中期財政計画を策定し、財政健全化に取り組まれないか。

委員：市の HP アクセス数について、最近の若者は HP を見ないため、掲載内容を充実させても意味がないように感じる。広報の手法について検討の余地があるのではないか。

委員：長い動画よりもショート動画の方が若者は見やすい。TikTok などを駆使し、市の PR 等を実施されてはどうか。

委員：宇治納税協会では、京都アニメーションとコラボし、スマホ申告に係る広報を実施している。聖地巡礼の活用など、ハード面に限らずソフト面での工夫も必要ではないか。